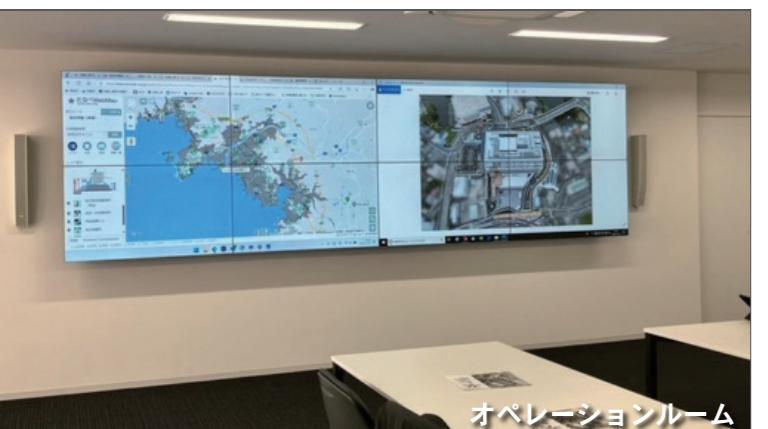




和歌山県田辺市の防災対策室



オペレーションルーム



躯体免震構造



避難者用応急給水栓

和歌山県田辺市の防災対策室

オペレーションルーム

躯体免震構造

避難者用応急給水栓

白糠町の「災害対策本部機能」

近年、国内で建設される市役所や役場庁舎の多くは、災害に強く、さらには、災害情報の収集、共有、発信が一元的に行える設備や空間を持つ「災害対策本部機能」を備えています。

昭和58年に建設された現在の白糠町役場は、津波の浸水深が2階の天井までと想定され、応急復旧・復興の業務を行う設備も空間も無いという現実があります。

これらの現状を受け、町は公共施設整備計画を見直し、新たに役場庁

白糠町の「災害対策本部機能」

舍東側（現来客用駐車場）に「防災拠点施設」を整備することとしました。

この施設は、浸水深以上にある役場3階フロアと接続し、意思決定や状況の共有、関係機関との協議調整を可能とする機能と空間を持つた、現役場庁舎と一緒にながら業務等が行える施設として検討しています。

令和6年1月に発生した「能登半島

平成23年、東日本大震災の後、白糠町は生命を守るために「いかに早く、安全に高い場所に避難する」・「逃げるが勝ち」を合言葉に「津波避難対策」を現在進行形で推し進めています。

しかしながら、まだ記憶に新しい

「事前防災」に加えて

「地震」は、新たな課題を私たちに突きつけました。

最大震度7の地震により、死者489人、全壊家屋は6445棟に上

った大災害は、断層の動きによつて

陸側が4メートルもせり上がり、3メートル以上の津波も広範囲で発生

し、道路や水道管などのインフラ被

害により火災が発生するなど、大地

震、大津波、大火災という、今まで

津波避難をはじめとする発災時の

事前防災対策に加え、発災後の速やかな応急復旧・復興への備えとして

「災害対策本部機能」を備えた「庁舎の強靭化」という課題が顕在化しました。

津波避難をはじめとする発災時の

事前防災対策に加え、発災後の速やかな応急復旧・復興への備えとして

「災害対策本部機能」を備えた「庁舎の強